

## 論文内容の要旨

専攻名	多文化社会学 専攻	氏名	立石 丞
題名	北東アジアにおける非核化と日本の安全保障 — 日米同盟の視点からみた「朝鮮半島の非核化」と「北東アジア非核兵器地帯」の比較考察 —		
論文内容の要旨			
(研究目的)			
<p>2018年の南北首脳会談と米朝首脳会談は、朝鮮半島情勢に歴史的な転換点をもたらした。北朝鮮は韓国との緊張緩和と米国による体制保証を得る代わりに、自らの核を放棄する意思を共同宣言に記したのである。今後の情勢は予断を許さないが、一連の首脳会談の基本合意が順次具体化していけば、朝鮮戦争終結・平和条約締結への展望が開ける可能性が出てきた。</p> <p>「朝鮮半島の非核化」に向けた米朝プロセスは日本政府も支持しており、国際社会と緊密に連携していく姿勢を明らかにしている。一方、一連の首脳会談がもたらした北東アジアにおける緊張緩和を発展させていくために在野の大学やシンクタンクから「北東アジア非核兵器地帯 (NEA-NWFZ)」創設の提案が出されている。一般的に非核兵器地帯の設置は条約によるもので、北東アジアで設置されれば、地帯内に位置する朝鮮半島以外の日本も加わることが想定され、核兵器国からの「消極的安全保証」(核保有国から核攻撃されない保証) が得られる効用もある。この効用を活かせれば、「朝鮮半島の非核化」よりも NEA-NWFZ の方が北東アジアの安定に資することも考えられるが、日本政府は NEA-NWFZ を政策レベルで取り上げたことはない。</p> <p>日本政府が NEA-NWFZ に消極的な諸要因についてはさまざまな角度からの分析が可能</p>			

氏名	立石 丞
<p>であるが、本論文では、日本の安全保障政策の根幹となっている日米同盟の視点から考察した。理由は、①国際法上あるいは不拡散政策上の視点から朝鮮半島の非核化と NEA-NWFZ の比較分析を試みるだけでは、日本政府の政策判断の深部を考察しきれないこと、②「朝鮮半島の非核化」、NEA-NWFZ とも北東アジアと日本の安全保障に直結する問題であり、日米同盟の視点からの分析が必要不可欠であること、である。</p> <p>日米同盟の視点からの「朝鮮半島の非核化」と NEA-NWFZ の比較分析、それを踏まえた日本政府の政策判断の諸要因の分析は先行研究が極めて少ないのが現状である。しかし、学術的には必要な研究課題と考えられるため、考察作業を試みた。</p> <p>(論文の概要)</p> <p>全体の構成だが、第一に日米同盟の特徴を把握するために、日米安全保障条約の運用が冷戦後にいかにして調整・再編され、どのような優先順位がつけられてきたのかを整理した。次に、「朝鮮半島の非核化」と NEA-NWFZ の特徴と共通性、相違性を分析し、日米同盟の中心となっている拡大核抑止（核の傘）との関連性について考察した。そして、日米同盟の視点に立った場合でも、NEA-NWFZ が日本または北東アジアの安全保障にもたらす潜在的効用があることを明確化した。最後に、そうした潜在的効用があるにも関わらず、日本政府が NEA-NWFZ に消極的な諸要因について考察した。</p> <p>分析結果の要点をまとめると以下ようになる。</p> <p>冷戦後の日本政府は、北朝鮮の核・ミサイル開発と中国の核戦力増強を安全保障上の新たな脅威と認識して日米安保を再定義し、同盟関係と拡大核抑止を強化することで脅威への対応をはかってきた。拡大核抑止を容認する核不拡散条約を重視する一方で、拡大核抑止と両立しない核兵器禁止条約は批判する日本政府の立場は、拡大核抑止への傾斜を裏付けている。</p> <p>「朝鮮半島の非核化」と NEA-NWFZ はそれぞれ朝鮮戦争の終結を要件にしている点、</p>	

氏名	立石 丞
<p>北朝鮮の核放棄を不可欠な条件としている点に共通性がある。一方、NEA-NWFZ は日本も地帯内国家に入ることから、日本の領域においても「核兵器の完全な不存在」が法的に義務づけられ、「朝鮮半島の非核化」とは異なる状況を生み出す。日本政府は非核三原則を基本方針にして「核の持ち込み」を禁じているが、あくまで政治的宣言であって法的義務はない。その点から考えると、NEA-NWFZ は従来の方針から大きく踏み出すものであり、そこにも日本政府が慎重な立場をとる要因がある。NEA-NWFZ では核兵器国から消極的安全保証を得られる仕組みがあり、これが実現すれば日米同盟に基づく拡大抑止における核兵器の役割が大幅に縮減される可能性がある点でも「朝鮮半島の非核化」との相違性がある。米国からの拡大核抑止を自国の安全保障政策の根幹としている日本政府にとって、核の役割縮小は避けたいとの思慮もあると考えられる。</p> <p>だが、米国の拡大核抑止を強化する選択を続ければ、北朝鮮の核廃棄への阻害要因になるリスクが高まるほか、米国、中国とロシア間で核軍拡競争が起きる懸念もある。これに対して NEA-NWFZ が機能すれば、北朝鮮の核の脅威をなくせるだけでなく、消極的安全保証に法的にコミットした核保有国からの核の脅威も理論的には除去できる。日本政府は拡大核抑止の強化と「朝鮮半島の非核化」、NEA-NWFZ が自国の安全保障にもたらす効用と限界を見定めたうえでの政策選択の検討が肝要と考えられる。</p>	